

3 環境情報の収集・発信

センターでは、県民の環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。また、平成26年7月からフェイスブック、令和2年5月からYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」、令和2年11月からインスタグラムを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報を発信している。

これに加え、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html> [令和5年度アクセス件数 173,427件]

フェイスブックページアドレス <https://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku>

YouTube公式チャンネルアドレス <https://www.youtube.com/channel/UCloUEno4mbrzZlOT2SzEV7A>

インスタグラムページアドレス <https://www.instagram.com/cess.saitamaken/>

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

- ア センターについて 総長あいさつ、組織図、沿革、全景(航空写真)、パンフレットなどを掲載。
- イ 施設紹介 施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。
- ウ 試験研究の取組 研究所中期取組方針、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。
- エ 環境学習・情報 イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

(2) お知らせ

特に注目してほしい情報を掲載。

(3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

(4) 環境学習・イベント情報

最新のイベント情報、校外学習、出前講座の案内など環境学習に関する情報を掲載。

(5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

(6) お役立ちPickUp

イベント情報、「ココが知りたい！埼玉の環境」などアクセスの多い情報を掲載。

(7) リンク

公式SNS情報、埼玉県気候変動適応センター、刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitamaなど。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター(A4版・6～8ページ)を令和5年度に4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードができる。

(1) 第59号(令和5年4月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「GISデータで見た埼玉県の土地利用の変化」
「埼玉県環境科学国際センター講演会を開催しました」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(50) 「環境保全におけるファイトレメディエーション修復技術とは何ですか？」
- ・ 環境学習・イベント情報

(2) 第60号(令和5年7月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「埼玉県における地中熱エネルギーの活用 脱炭素社会への切り札！」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(51) 「光化学スモッグの原因となる揮発性有機化合物(VOC)はどんなもので、どこから出てくるのですか？」
- ・ 環境学習・イベント情報

(3) 第61号(令和5年10月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「シリコーン化合物の環境中存在実態を探る ～シリコーンは環境に対して有害なのか？～」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(52) 「埼玉県の温室効果ガスの濃度って、増えているの？」

- ・ 環境学習・イベント情報

(4) 第62号(令和6年1月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「街路樹枯死の原因を探れ！ ～除草剤を追いかけた研究員たちの暑い夏～」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(53) 「川の水に蛍光物質が溶けていると聞きました。どのようなものがあるのでしょうか。」
- ・ センター講演会のお知らせ
- ・ 環境学習・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「令和5年度環境科学国際センター講演会」を令和6年2月7日に、さいたま商工会議所会館の2階ホールとオンラインによるハイブリット方式で開催した。

今回は、北里大学 名誉教授 陽捷行 氏による特別講演、続いてセンター研究員による研究発表を行った。また、各研究グループの研究成果等をポスター展示し、研究員等が説明を行った。センター講演会の参加者は全体で200人であった。

(1) 特別講演

土壌圏から見た地球生命圏の温暖化・オゾン層破壊・生物多様性……………北里大学 名誉教授 陽捷行

今や人間圏は80億人の人口に肥大し、豊かさを追求するあまり、地球生命圏の温暖化・オゾン層破壊・生物多様性の地球環境問題が生じている。30年後には、地球の環境容量の限界値と言われる100億人を超えると予測されている。地球環境問題は人口問題、人口問題は食料問題、食料問題は農業問題、農業問題は土壌問題であり、人間圏による地球環境問題は、巡り巡って土壌問題に帰結する。最大の問題は、この地球には100億人を養う土壌は分布していないことである。ここで、私たちが取り組むべき事例として、例えば水田から排出されるメタンガスの発生量を少なくする方法、化学窒素肥料に被膜をする方法、生物多様性に有効な有機農業を進めていくことなどが挙げられる。

(2) センターの研究成果発表

「汚れを運ぶ道」を科学する！ ～浄化槽汚泥の収集・運搬の解析～……………水環境担当 専門研究員 見島伊織

家庭に設置されている浄化槽の汚泥を収集し、運搬する「バキューム車」の代替として、水張り水が不要な「汚泥濃縮車」を導入した場合の環境負荷の低減に関する研究である。埼玉県内の対象地域で解析した結果、大幅なCO₂排出削減が試算された。

「ゴミの終活」を科学する！ ～最終処分場の新たな管理への挑戦～…資源循環・廃棄物担当 主任研究員 磯部友護

埋め立てが終了した最終処分場の廃止期間を予測するモデルを構築する研究である。浸出水濃度や処分場構造などの実測データを活用し、Web上で作動させる予測モデルを開発した。また、実務者と研究者の連携強化を図る取組を行った。

「自然由来の土壌汚染」を科学する！ ～縄文時代から地中に眠り続ける土壌汚染の種～……………

…………… 土壌・地下水・地盤担当 担当部長 石山高

土木工事で地面を掘削すると、6千年前の海成堆積物である黄鉄鉱などが現れ、土壌汚染を引き起こすことがある。県内に分布する海成堆積物の汚染リスクの地域特性を明らかにする研究を行い、環境リスクの少ない工事方法などを提案した。

(3) 研究成果等のポスター展示・説明

温暖化対策担当、大気環境担当、自然環境担当、資源循環・廃棄物担当、化学物質・環境放射能担当、水環境担当、土壌・地下水・地盤担当の研究成果をポスター展示し、各研究員が説明した。また、総務・学習・情報担当は、ポスターで展示館(彩かんかん)や環境学習情報を紹介した。



特別講演



ポスター展示

3. 4 環境情報の提供

(1) 気候変動適応センター

埼玉県では、平成30年12月の気候変動適応法施行にあわせ、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センター(埼玉県気候変動適応センター)に位置付けた。埼玉県気候変動適応センターでは、県内の気象情報や影響情報、適応策に関連する情報を収集・整理するとともに、新たに埼玉県気候変動適応センターのホームページ(SAI-PLAT)を立ち上げ、インターネットを通じた情報提供を行っている。さらに、気候変動適応サイエンスカフェなど様々な手段を通じた情報発信を行っている。

気候変動適応サイエンスカフェ

期 日	テーマ	講 師 名	開催場所	参加者
2023. 7. 7	「高まる熱中症リスクと対策」	<スピーカー> 国立環境研究所 客員研究員 小野雅司 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	38名
2024. 1.15	「カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ2つの世界目標を同時に達成するには?」	<スピーカー> 森林総合研究所 主任研究員 大橋春香 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	88名
2024. 3.28	「温暖化が水稻生産に及ぼす影響とその適応策」	<スピーカー> 国立環境研究所 アジア太平洋気候変動適応研究室長 増富祐司 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 大和広明	オンライン	84名

(3 講座、計 210 名)

(2) 生物多様性センター

埼玉県では、「埼玉県生物多様性保全戦略」を推進し、生物多様性の保全を進める関係者の連携・情報共有の拠点として、令和4年4月1日に、「埼玉県生物多様性センター」を環境科学国際センターに設置した。ここでは、地域保全活動の支援をはじめ、生物多様性保全に関する情報収集・管理・発信、調査研究、教育・普及啓発などを行っている。埼玉県生物多様性センターのホームページでそれらの情報を提供しているほか、サイエンスカフェなどによる普及啓発活動も行っている。

イベント

期 日	イベント名及びテーマ	演題及び講師	開催場所	参加者
2023. 6.16	いきものサイエンスカフェ ¹⁾ 「かいりぼりではみがえる水辺の生物多様性」	<スピーカー> 認定NPO法人生態工房 理事長 片岡友美	オンライン	38名
2023. 6.24	県の蝶ミドリシジミを見る集い 2023 ²⁾	秋ヶ瀬公園(ピクニックの森周辺)におけるミ ドリシジミの観察 <講師> 埼玉昆虫談話会会員	さいたま市	38名
2023. 9. 1	第21回環境問題の現況と将来を展望するセミナー ³⁾ 「生物の不思議を知り 生物の保全を再考する」	<基調講演1> 「生物の不思議を知る～多様な植物の驚きの機能～」 埼玉大学 教授 豊田正嗣 <基調講演2> 「生物の保全を再考する～グローバルな動きと地域の取組～」 東京都立大学 准教授 大澤剛士	さいたま市 及びオン ライン	97名
2023.11. 4	いきものサイエンスカフェ ¹⁾ 「植物学者 牧野富太郎の世界」	<スピーカー> 練馬区立牧野記念庭園 学芸員 田中純子	さいたま市 及びオン ライン	61名
2023.11.11	いきものセミナー ^{1,4)} 「コウノトリのことをもっと知ろう！」	<見学会> 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター <セミナー> 「コウノトリの野外放鳥における市民の役割」 大正大学 教授 本田裕子	鴻巣市	30名
2024. 1.15	いきものサイエンスカフェ 「カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ 2つの世界 目標を同時に達成するには？」	気候変動適応センターと共同開催(再掲)	オンライン	88名
2024. 2.10	第10回いきものフォーラム ¹⁾ 「生物多様性保全団体交流促進フォーラム～団体間の情報共有や連携を考える～」	<基調講演> 「JBONの活動報告と、生物多様性保全活動の活性化に向けた市民・企業・行政の連携の重要性について」 国立環境研究所 気候変動適応センター副センター長、日本生物多様性観測ネットワーク(JBON) 代表 西廣淳 <事例発表> 「天覧山東谷津・ほとけどじょうの里での保全活動」 NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 副代表理事 大石章	環境科学 国際セン ター	60名

共同開催団体:(1)(特非)いろいろ生きものネット埼玉、(2)埼玉昆虫談話会、(3)(一社)埼玉県環境検査研究協会、(4)(特非)鴻巣こうのとりを育む会

(7 イベント、計 412 名、うち 1 イベント 88 名は気候変動適応センターと共同開催)



埼玉県生物多様性センターホームページ(<https://saitama-biodiversity-center-cessgis.hub.arcgis.com/>)

(3) モニタリングデータの提供 (CO₂)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、東秩父村(1992年度～)及び加須市(2000年度～)において、温室効果ガスである大気中のCO₂の濃度を観測してきた。観測に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開している。

(4) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

(5) 共同研究サポート等

民間事業者や地域との連携を強化するため、次のとおり試験研究成果に関する情報を積極的に発信するとともに、民間事業者のニーズ等に関する情報を収集した。

- ・エコプロ2023: 令和5年12月6日～8日に東京ビッグサイトで開催されたエコプロ2023に標準ブースで出展し、環境科学国際センターの概要や研究シーズを紹介した。出展内容は次のとおり。

熱中症対策に活用できる暑さ指数の値のリアルタイム公表と暑さ指数計測装置の開発……………
 ………………温暖化対策担当 主任 大和広明
 埼玉県における地中熱利用システムの検証と開発……………土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 濱元栄起
 埼玉県気候変動適応センター
 埼玉県生物多様性センター

- ・分析イノベーション交流会: 令和6年2月7日～8日に東京たま未来メッセで開催された分析イノベーション交流会に民間企業との共同研究の成果を出展した。

有機フッ素化合物(PFASs)分析対応高気密標準試薬保存瓶
 ………………化学物質・環境放射能担当 専門研究員 竹峰秀祐
 ………………土壌・地下水・地盤担当 主任 高沢麻里

- ・民間企業等との共同研究: 大気粒子の磁性の測定や地中熱の測定、PFASsの分析に関する民間企業との共同研究を3件実施するとともに、新たに民間企業と上空の大気計測、暑さ指数計の開発、PFASsやダイオキシン分析に関する共同研究契約を4件結んだ。

- ・ぶぎんレポート(ぶぎん地域経済研究所発行): ぶぎんレポート連載の「環境研究の最前線ー埼玉県環境科学国際センター研究員に聞く」に、研究員が執筆した3つの記事が掲載された(令和5年4月、5月、6月各号)。

廃棄資源を活用した低コストで環境に優しい土壌汚染対策技術…土壌・地下水・地盤担当 担当部長 石山高アスベスト(石綿)簡易判定法の開発……………資源循環・廃棄物担当 担当部長 川崎幹生
 熱中症予防のためのIoT暑さ指数計の開発と活用……………温暖化対策担当 主任 大和広明

- ・埼玉県エコサポートガイドブック: 事業者向けの県の環境支援策をまとめた「埼玉県エコサポートガイドブック」に、環境保全に関する共同研究等の支援事業として研究シーズ集第3版を紹介した。

- ・埼玉県産業技術総合センターが行っている民間企業との生分解性プラスチックの開発について、試作サンプルの紫外線、オゾン耐候性及び土壌中の生分解性を試験し、製品化に向けた支援を行った。



エコプロ2023への出展



PFASs分析対応高気密標準試薬保存瓶

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

(13回)

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2023. 4.22	読売新聞	害虫被害 昨年度最悪 598件	特定外来生物の昆虫「クビアカツヤカミキリ」に桜などが食い荒らされる被害が県内で広がっている。県環境科学国際センターによると、昨年度の被害件数は前年度比154件増の598件で、公表を始めた2018年度以降で最悪だった。
2023. 5. 1	彩の国だより	命と暮らしを支える 生物多様性	私たちは、自然の恩恵を受けている一方で、人間の活動が生き物からすみかや命さえも奪っている現状があります。近年、地球はかつてないほど危機的な状況にあり、生き物たちもいついなくなるかわかりません。美しい自然や生き物、そして自分たちの生活を守るために、生物多様性について学んでみよう！
2023. 7. 7	朝日新聞	害虫カミキリからサクラ 守れ 県、駆除対策へ 情報募る	外来害虫のクビアカツヤカミキリの活動域が埼玉県内で年々広がっている。県環境科学国際センターは、県民に情報提供を呼びかけている。センターの三輪誠さんと嶋田知英さんに近くの公園で確認の方法を教えてもらった。「クビアカは特定外来生物。飼うことは基本できません。その場で駆除してください」と2人。
2023. 7. 8	読売新聞	害虫被害 県「情報を」 クビアカツヤカミキリ	特定外来生物の昆虫「クビアカツヤカミキリ」の活動域の拡大を受け、県環境科学国際センターが8月末まで、被害の情報提供を呼びかけている。同センターによると、2022年度に確認された被害は598件と過去最多で、県内22市町村に及んだ。情報の提供方法はホームページに掲載している。
2023. 7. 13	埼玉新聞	さいたま38.5度 各地で最高気温更新	県内は12日、高気圧に覆われた影響で各地で気温が上昇した。県環境科学国際センターによると、県内24か所に設置された「暑さ指数計」全てで、湿度や気温などが「危険」とされる水準に達した。同センターの担当者は「前日が暑いと朝でも気温が下がり切らず、危険な場合がある。指数を確認し、熱中症対策を心がけてほしい」と話した。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2023. 7. 13	読売新聞	暑さ指数 県内24か所 公開 熱中症予防に 12日 94人救急搬送	県は、熱中症の危険度の指標となる「暑さ指数」の公開を始めた。気温や湿度などから算出した、県内24か所の数値を県気候変動適応センターのホームページで確認できるようにし、熱中症予防に役立ててもらおう。対象箇所はさいたま市や越谷市、熊谷市、秩父市などで、地図上の数値が10分ごとに更新される。公開は9月中旬までの予定。
2023. 7. 29	埼玉新聞	ビッグモーター街路樹 枯死問題 所沢、八潮店付近を徴 さ 県「結果次第で被 害届」	中古車販売大手ビッグモーターの店舗周辺で街路樹が不自然に枯れるなどしている問題で、埼玉県道路環境課は28日、県道沿いに店を構える所沢店と八潮店付近の枯れた街路樹について、周辺の土壌調査を実施した。八潮店では同日午後2時から、同課と越谷県土整備事務所、県環境科学国際センターによって土の採取を行った。
2023. 7. 29	東京新聞	街路樹枯死 除草剤 影響認める ビッグモ ーター陳謝 問題は枯れず 埼玉 県が土壌調査 都は損 害賠償も視野	中古車販売大手「ビッグモーター」の店舗前にある街路樹が不自然に枯れるなどしている問題で、各地の自治体や国は28日、土壌調査などの対応に追われた。埼玉県は県管理の道路に面する所沢店と八潮店で土壌調査を開始。八潮店の前では午後、県の研究機関の職員らが土壌を採取した。
2023. 8. 5	埼玉新聞	除草剤成分を検出 ビッグモーター所沢店 前の土壌から	県は4日、中古車販売大手「ビッグモーター」の店舗前にある街路樹が不自然に枯れるなどしている問題で、7月28日に所沢店前の土壌調査で採取した検体から除草剤成分のグリホサートが検出されたと発表した。県環境科学国際センターの酒井辰夫センター長は「通常(除草剤を)まいているよりも少し多い量」と説明。
2023. 8. 5	日本経済新聞	ビッグモーター所沢店 前 土壌から除草剤成 分検出 枯れた街路樹、県が被 害届	中古車販売大手のビッグモーターの店舗付近で街路樹が枯れる事例が多発している問題を巡り、埼玉県は4日、県内2店舗前の土壌調査の結果を報告した。県環境科学国際センターは7月末、両店前の植樹帯の土壌を調査。成分を測定したところ、群馬で確認された「グリホサート」を所沢店前でも検出。
2023. 8. 9	朝日新聞	24地点の「暑さ指数」 独自公開 10分おき更 新 来月中旬まで	県環境科学国際センターと大宮工業高校が、熱中症の危険度を示す「暑さ指数」を独自に算出してインターネットで公開している。データは、県気候変動適応センターのホームページで9月中旬まで公開している。県環境科学国際センターの担当者は「より多くの地域のデータをこまめに知ることができる。熱中症予防に役立ててもらえれば」。
2023. 9. 21	東京新聞	猛暑影響？秋の花ま ばら 「彼岸花」の名 所・埼玉県横瀬町でも 困惑 地元農家「見た ことない」	全国各地で、秋の花の開花が遅れるケースが相次いでいる。埼玉県内では、見頃が例年より1週間以上、ずれ込む彼岸花の名所も。県環境科学国際センターの米倉哲志研究員(農学博士)は「一般的に開花のタイミングは、日の長さや気温によって早くなったり遅くなったりする」と指摘。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2024. 2. 1	市報 ぎょうだ	特集 外来種を知る 外来種からの被害を防ぐために 被害の拡大を抑えるためには皆さんの協力が必要です	県環境科学国際センターでは、特定外来生物に関する情報の収集や調査などを行い、皆さんへの情報発信をしています。県内では、特にアライグマとクビアカツヤカミキリが猛威を振るっており、警戒が必要です。一人一人が「外来種被害予防三原則」を守り被害拡大防止に努めることが大切です。

(2) テレビ放映、ラジオ放送

(11回)

放送日	局名	番組名(タイトル)	内容
2023. 4.25	テレビ埼玉	知事記者会見	ゴールデンウィークに向けた観光情報
2023. 4.28	NHKうらわ FMラジオ	ひるどき さいたまーず	ゴールデンウィーク特別企画を案内
2023. 7.11	テレビ埼玉	知事記者会見	埼玉県における熱中症の状況
2023. 7.28	テレビ埼玉	ニュース930 Plus	県 所沢と八潮の2店舗前で土壌調査 除草剤成分含まれていないかなど調べ
2023. 8. 4	テレビ埼玉	ニュース545 ニュース930 Plus	ビッグモーター所沢店 店舗前の土壌から除草剤成分検出
2023. 8. 4	NHK総合	首都圏ネットワーク	ビッグモーター街路樹問題 除草剤の成分検出も
2023. 8. 4	ANN	ANN NEWS	ビッグモーター 所沢市の店舗前でも除草剤の成分
2023. 8. 5	TBS	JNN NEWS	ビッグモーター街路樹問題
2023. 9.22	NHK総合	おはよう日本	近年の鳩山の暑さの理由
2023.10.10	NHK総合	ひるまえほっと	猛暑の町・鳩山に迫る
2023.10.25	日本テレビ	news every.	首都圏で多くの目撃情報 ナゾの生き物の危険な生態

(3) ミニコミ誌等

(1回)

掲載日	掲載誌等	タイトル	内容
2023. 6	学習情報誌 さびあ	さっぴーの社会科見学へ行こう！ 第168回「埼玉県環境科学国際センター」	「彩かんかん」と生態園の社会科見学案内